

平成 25 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492200355	事業の開始年月日	平成22年6月1日
		指定年月日	平成22年6月1日
法人名	株式会社 へいあん		
事業所名	グループホーム「へいあん善行」		
所在地	(〒251-0871) 神奈川県藤沢市善行2-23-8		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成26年1月4日	評価結果 市町村受理日	平成26年7月8日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症という不安を抱えた方たちに「安心感」と「自分の居場所と思える場所の提供」という視点を持った介護に力を入れています。また、ご自分でできる事はご自分でしていただき、できない所はどこまでなら出来るのか、どこをお手伝いすれば出来るか考え介護しています。外出イベントや家族会、ボランティアの受け入れなどにも力を入れています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成26年1月20日	評価機関 評価決定日	平成26年3月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 当事業所は小田急江ノ島線・善行駅から徒歩で10分ほどの住宅地の中にあり、近くには県営善行団地がある。エレベーターが設置された木造2階建の建物は省エネルギー、耐震設計、オール電化、CO ₂ 排出抑制や防災に配慮されている。リビングなどの共用空間は採光も良く、広くてゆったりとした間取りで設計されている。 【理念をもとにした様々な支援の工夫】 理念に「ゆっくり、笑顔、楽しみながら」を掲げている。職員は日々の業務にゆとりを持つ事、自分達が笑顔でなければ利用者も笑顔になれない事を意識し、利用者との時間を多く持つことを心掛け、丁寧なケアが行なえるよう取り組んでいる。利用者が出来ることは自分で行なってもらう自立支援を重視し、利用者の持つ力を少しでも維持できるように努めている。今年度は法人内の研究発表のテーマとして、リビングに畳コーナーを作り、靴を脱いで寛ぐ事を推奨し入賞した。また通常の湯船に入ることが難しくなった利用者には訪問入浴サービス用の浴槽を用いて、安心して湯に浸かってもらえるよう配慮している。 【地域交流に向けた取り組み】 事業所を地域の集まりに活用してもらえよう「地域交流室」を設け、自治会の会合などに開放している。高齢化が進み地域のつながりが薄れつつある近隣との交流のきっかけとなれるよう、事業所が主となって場を提供し夏祭りを盛大に行なっている。今年度は地域の方が大勢、(200人位)が来訪するなど定着したイベントになってきている。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム「へいあん善行」
ユニット名	かわせみ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

事業所名	グループホーム「へいあん善行」
ユニット名	やまふじ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所、法人の理念を毎朝申し送り時にスタッフで唱和している。	ホームの理念は『「ゆっくり」「笑顔」「楽しみながら」を共に支えあう関係作り』である。法人理念と一緒に、フロア・事務所・地域交流室に掲示し、毎朝の申し送り時に唱和している。日々の業務に追われずゆとりをもつ、職員が笑顔でいることが利用者を笑顔にする、そのために利用者とゆっくりとした時間を作ることを意識してケアを行なっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入したり、地域のボランティアの方に来て頂き交流を図っている。	中原自治会に加入し、どんど焼きや夏祭りに参加することもある。隣接の善行団地自治会とも交流があり、事業所の地域交流室を自治会の会合などに開放している。事業所の夏まつりには地域の方が大勢、(200人位)が来訪するなど、地域交流の一端を担っている。オカリナや二胡の演奏、習字、庭の手入れのボランティアが来所している。今年度は地域の子ども団体の沖縄民謡のエイサーを、招く計画がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に実施していない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回の割合で実施。	本年度は6月と8月に行なった。次回は2月の予定である。ホームの様子を知ってもらうため、8月は夏祭りを兼ねて開催している。出席者は自治会長、民生委員、家族会代表、法人部長、エリア長などで、土日の開催のため、市や地域包括支援センターの担当者出席はない。事業所の近況やイベントの報告、消防署員による災害時の地域との連携について、また外部評価の結果報告などを行ない意見交換をしている。	昨年度の「期待したい項目」の継続として、会議の開催を多くすること。市に議事録の提出を行なうこと。藤沢市又は地域包括支援センターの担当者の会議への参加に向けた取り組みを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	藤沢市GH連絡会へ加入し連携。	藤沢市介護保険課には更新手続き、事故報告などの際に窓口に出かけ、情報交換をしている。市の「グループホーム事業所連絡会」が2ヶ月に1回あり、市の担当者を交えて、意見や情報交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回身体拘束防止についての研修を実施。	法人では身体拘束をしない方針のもとに「どういったことが身体拘束にあたるのか」横浜市の家族アンケート結果を基にした「家族からみた不適切なケア」や日常の中で気付かずに行われそうな拘束の事例などを用いて、研修を行なった。玄関は外からは入れるが、中からは開閉ボタンで施錠している。各ユニット入り口は施錠せず、センサーチャイムで出入りを確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回虐待防止についての研修を実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実施なし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明、同意、交付をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で意見を伺い、運営に反映させている。	日頃から家族の訪問が多く、折りに触れ意見や要望を聞いている。毎月、利用者個別に写真を添えた便りや「絆のたより」を送付している。家族からの要望で作られた家族会はイベントや食事会に合わせて開催している。家族からの意見を反映し、玄関フロアに当日のシフトの職員の顔写真と名前をユニットごとに掲示しており、外出行事への家族の参加も実現した。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な個別面談や月1回のミーティングの場で機会を設けている。	月1回のミーティング時や申し送り時に職員の意見や提案を聞いている。また年に2回の契約更新時に面談し話し合いをしている。職員の意見は、早番、遅番の担当業務についてや利用者への支援方法などが主で、日常業務に反映させている。以前に取り上げられた、休憩時間の取り方は現在も継続している。管理者は職員の自発的な行動を重視している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給、昇格に反映させ、労働時間も体調等を考慮している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修実施や業務内でのOJTも実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会へ加入し意見交換している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントに基づき、利用を開始する中での新たなことについては随時見直し、信頼関係の構築を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	積極的にご家族へ実際の生活状況をお伝えし、コミュニケーションを取りながら信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前のアセスメントでまず必要な対応を行なう。その後随時「その時」に必要なサービス内容を変更していく。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事、共同で出来る事等などを見極め、共同生活という視点で関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	積極的にご家族と連携を図り、ご家族に関わっていただき、本人とご家族の絆を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の来所についても積極的に受け入れている。	馴染みの人や場については、入居時のアセスメント「馴染みのもの」欄から把握している。親戚や、以前教会に行っていた方に友人の来訪がある。踊りの会に入っていた利用者の関係で、踊りのボランティアが来ている。入居前利用していたデイサービス事業所、喫茶店やスーパーなど、その人の馴染みの場所への外出を支援している。年末年始などに元の自宅に外泊する方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人の時間と一緒に過ごす時間を作り、孤立しがちな方も関わり合えるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も思い出になるようなプレゼントを贈ったり、連絡した際には様子を伺い必要があれば相談を受けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎月モニタリングを行い、更新時にはニーズの把握に努めている。	ほとんどの方は言葉で意向を伝えられるので、日常会話の中で「～は好きですか？」などと具体的に質問し、一つ一つ確認しながら支援に活かしている。普段は余り話さない方には入浴時などの一対一になる時に、ゆっくりと話を聞いている。コミュニケーションが取りづらい方には表情や様子から思いを汲み取るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にあセスメントを行い、施設で実際に生活する中で情報の補完を行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りやミーティング等の場で把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングまでに、本人、ご家族、その他スタッフ等から意見を集約し作成している。	入居前に管理者と計画作成担当者が自宅を訪問し、アセスメントをもとに暫定のプランを作成している。1か月様子を見て、ミーティングで話し合い、本プランを作成する。日々のケア記録や毎月のモニタリングをもとに評価を行い、医師や家族等の意見を取り入れながら、通常は6か月ごとに再アセスメントを行ない見直している。職員は個別ケアファイルに貼られた計画目標を確認しながら記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々記録し、計画作成時の参考にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常にその時々で必要なサービス、新しい取り組みを取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々に定期的に支援頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が希望される主治医と協力しながら往診時など適切な情報提供を行なっている。	以前からのかかりつけ医に家族対応で受診している方は1名で、それ以外の利用者は協力医をかかりつけ医とし、隔週で往診を受けている。往診医は在宅医療専門医で必要に応じて精神科、整形外科などを受診でき、24時間連絡可能である。歯科は年に1回、定期健診を、また治療など必要に応じて往診してもらっている。整形外科などへの通院は基本的には家族が対応し、家族からは受診結果の報告を受けている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と週1回、医療連携をし支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後に定期的に状況確認し、退院前にはカンファレンスを実施。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、また主治医から看取りに状態を判断された場合、看取り介護中も含めて複数回に渡り何度も話し合いを行なう。	契約時に「重度化した場合における対応に関する指針」をもとに事業所の方針を説明し同意を得ている。前回の看取り支援の際には、エンゼルケアまで看護師と一緒にいった。看取りケアに入った場合も、その都度、家族の気持ちを確認しながら支援している。看取りの後は、職員の話を聞く機会をもうけ、メンタルサポートをしている。ミーティングではそれぞれの体験を通じて、知識などを深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥時やCPRの方法を定期的には確認、急変時の対応方法についても確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練、別で災害訓練なども行なう。運営推進会議の場で施設への協力体制を確認している。	年に2回、火災想定による防災訓練を、1回は夜間想定、もう1回は通報訓練で行い、消防署に報告をしている。有事の際は消防車が5分以内で来られる距離にある。訓練には地域住民の参加は無い。地域の防災訓練にはまだ参加は実現できていない。利用者、職員を含む人数分の水や食料を3日分と救護用品や市販薬を備蓄している。	震災時には、地域住民の一時避難場所として事業所を開放したいと考えています。今後も継続して地域住民の避難訓練への参加を働きかけることを期待します。また備蓄の量を増やされることを検討してみたいかがでしょうか。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬を畏敬の念を持ち接している。	職員は入社時に接遇研修を受けている。法人の方針として利用者を「お客様」として対応している。利用者の呼び方は名字に「さん」付けが基本だが、結婚前の名字や名前など、本人に合わせて対応している。親しくなっても馴れ合わないよう常に「お客様」として意識を持ち、言葉遣いには注意している。個人情報に関する書類は事務所の鍵付き書庫で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、本人の生活ペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	体型や季節に合っていない服などはご家族へ連絡し、随時交換追加していただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好、量などに配慮し出来るところは一緒に行っている。	食材は専門業者から献立付きで配達されたものを、職員が調理している。職員は介助や見守りをしながら利用者と一緒に食事をしている。利用者はそれぞれが下膳、食器洗いなど出来ることを行っている。行事などでは寿司や年越しそばの出前を取ったり、外食に出かけたりしている。クリスマス会のケーキなどを利用者と職員と一緒に作っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を把握し、必要に応じて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々の口腔ケアや歯科による検診も行って必要に応じて治療もしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄が出来るよう必要な声かけ、促しを行なっている。	排泄チェック表で個々のパターンを見て声掛けと定時誘導するが、それ以外にも行動や様子を見て声かけし、出来るだけトイレでの排泄が出来るよう支援している。夜間についてはその人により、定時での声かけ誘導や、睡眠を重視するなど、それぞれに合わせて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動以外にも腸に効く漢方やヨーグルトなど薬だけに頼らない方法も行なっている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間帯は固定だが、入浴自体を気持ちのいいものになるよう配慮している。	1日に3人づつ、2日おきの午後4～6時を原則に入浴している。菖蒲湯、柚子湯、入浴剤などで季節感を演出したり、職員との会話を楽しめるようにしている。入浴後のノンアルコールビールを楽しみにする方もいる。浴槽をまたげない方にも訪問入浴サービス用の浴槽設備で対応している。気分よく入って貰えるよう、朝から会話を工夫したり好きな音楽をかけたりして、気持ちが入浴に向くように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも必要に応じて睡眠をいれたり、睡眠環境も整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況を常に把握し、症状変化があれば主治医へ相談し、必要に応じて薬も変更している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせて集団レク以外にもレクや役割などを取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日の散歩や、イベントでの外出支援を行なっている。	天気と利用者の体調がよければ午後2～3時ごろ散歩に出かけている。車椅子の方も一緒に近所の公園や買い物、近くの喫茶店に出かけている。月1回、外出行事として花見、江ノ島、初詣などに出かけていたが、利用者の状態に差が出てきたため、個別対応にしている。ベランダでのお月見や玄関前にテーブルとイスを出して、お茶やおやつを楽しむなど、毎月フロアごとに担当職員が行事を企画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が所持を希望する場合にはご家族へ説明し、持てるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りや、必要に応じて携帯を所持してもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の壁の飾り付けなどで心地よい生活環境になるように工夫している。	リビングは広々とした南向きで採光もよく、清掃も行き届いている。ソファが3か所に置かれている。訪問時、テレビ前のソファでは利用者数人がくつろいでいた。観葉植物や利用者の写真、習字作品が飾られている。フロア入り口のチェスト棚には、利用者の編んだ物を着せたキューピー人形や正月の飾りなどが置かれ、1階では金魚を飼育している。2階には広いバルコニーがあり、外気浴や洗濯物干しができる。利用者同士の行き来に、リハビリを兼ねて階段を利用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの利用方法を工夫して思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはなるべく居室内の環境を変えないように、以前使用していたものを使用し、その後も寝るだけではなく生活観のある部屋になるよう工夫している。	ドアを開けている部屋には、目隠し用に防炎の暖簾が掛けられている。エアコン、クローゼットは備え付けられている。照明、カーテン・ベッドは持ち込みで、必要に応じて介護用ベッドにする。箆笥、椅子、テレビ、ぬいぐるみ、家族の写真などそれぞれが好みの物を置いている。できる方は職員と一緒に部屋掃除を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の危険箇所を把握し、出来る限り自由に生活できるよう工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム「へいあん善行」

作成日 平成26年4月2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議が2ヶ月毎ではなく不定期になっている。市への議事録の提出や参加への要請等が出来ていない。	運営推進会議の定期開催。議事録の送付と参加の要請。	市への開催日時を連絡し参加を要請する。実施後は速やかに議事録を提出する。	1年
2	35	年2回の避難訓練は実施しているが、近隣住民参加型の避難訓練の開催が出来ていない。	地域の方が参加できる避難訓練の開催。	避難訓練開催の案内。震災時に要介護者の避難場所としての開放する旨を周知し近隣とのコミュニケーションを図っていく。	1年
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。